

性の多様性学ぶ 職員向け研修会

岡山市

性の多様性を学ぼうと、岡山市は、自助グループの代表や岡山大学院教授を招いて職員向けの研修会を開いた。性的少数者(LGBTなど)の当事者が窓口を訪れたり、電話相談があったりした際に職員が正しい知識に基づいて適切に対応できるよう、昨年度から実施しているもので、今年は2日間にわたって実施した。

2日目となった13日の研修会では、性的少数者らの自助グループ「プラウド岡山」の鈴木富美子代表や、心と体の性が一致しないG

ID(性同一性障害)学会理事長を務める中塚幹也・岡山大学院教授(生殖医学)らが講演。参加した職員約140人が熱心に耳を傾けた。

鈴木代表は、性的少数者は日本に約8%存在するという電通総研(2015年)の調査を紹介。社会の中で自分の性を隠さざるを得ない人が存在することを説明し、人の性は「男」と女で二分できない」と多様な性のあり方を伝えた。中塚教授は「体の性を心の性と合わせ、治療をしているがこれだけでは完結しない」と強調。来年度から戸籍上は男性でも性別を女性と自認する「トランスジェンダー

女性」の入学を認めたお茶の水女子大(東京都文京区)など、全国の配慮事例を伝え、学校や自治体の理解の深化を促した。

研修を担当した人権推進課は「昨年度と合わせて500人以上が参加し、『理解が深まった』との声もあった。職場での言動などを口ごもるから気をつけていければ」と話している。

【益川豊平】